



健康アイランド・瀬戸の島

借命会 (長野県) の人々が踏破したゆげ島四国



【写真説明】48番(西林寺、久司山山腹・西北側)と49番(浄土寺、久司山山腹西北側)の山道を通過する借命会のメンバー。(平成26年4月22日・提供田中元二氏)

弓削通信フエニックス2月号で、島四国札所六十二番(宝珠寺・太田網代越え)と六十三番(吉祥寺・中都)の間の古道を、ともかく通れるように切り開いたという記事を掲載した。それをした理由は、遠く長野県から四月の弓削島四国をめざし、三

On 2014/04/30, at 7:54, 田中元二 wrote:

平山 和昭様
ご返事ありがとうございます。

送った写真を弓削通信に使用しても構いません。「弓削通信」以前拝見してました。参考になりました。ご苦勞様です。

借命会(せきめいかい)は古道を歩く会です。あちこちの街道を歩き繋いでおります。古道にこだわっておりますので、なるべく(危険がない範囲で)本来の道を切り開いてでも歩いています。そのため今回の62番や48~49番のようなことになった訳です。48~49番を是非歩いて下さい、良い道となりました。道は切り開いただけではダメで歩いてこそですから。

近年の当会の行事はその他に街道を歩く(昨年に引き続き三州街道(塩尻〜岡崎)を歩く)聖地巡礼(比叡山の諸堂を隈なく訪ねる(阿闍梨道)・来年は高野山か)花紀行(花の名所へ、今年は梅池自然園)湯治(会の高齢化であちこちの名湯へ)島廻路(昨年は伊予大島、来年は笠岡神島か)

弓削を選んだのは、当会で毎年島廻路をしていること、遠方のため短期間で終われること、あまり知られていない所(会員が行ってなさそうな所)札所がお大師様の石仏のみの廻路もあるのだということ、歩いてみて良さそうな所、など。

ただ歩くのではなく、その土地の歴史や民俗などを入念に調べて、歩いております。土生の定光寺「庄右衛門様」の墓(供養塔)でお参りをして、その功績などを紹介したり、ミカン農家の方に色々尋ねたり、弓削の伝説をその地で紹介したり、楽しみながら歩いております。



【写真説明】弓削島札所巡りを終え宿舎(フェスバ)に帰る途中の松原で記念写真を撮らせていただいた。(撮影・平山)

十人規模の歩き遍路の方々が来島するという話を聞いたからだった。現地はかつて畑が何層にも耕作された典型的な島の段々畑だった。昔の人々の勤勉の証でもあったそれがいまではいたるところひどい藪になっている。今般、その活動のもとになった長野県のグループ(借命会)のリーダーさんからメールが届いた

た。ただ歩くためにのみ人は来る。いま我々は高齢化社会の波間にどっぷりと漂っている。そうしたなか広い世間には、ただ歩

たので紹介する。なおこの「借命会」のメンバー二十一人の皆さんは、去る四月二十二日から二十三日にかけて、弓削島四国八十八ヶ所を踏破された。一行はフェスバに止宿したの、地元にもきつちりお金を落とすにやめてくれたわけだ。趣味と美益を兼ね自然に親しむところで、昔は山奥やてっぺんまで畑があったので、梅雨に先駆け「道普請」なるものが各地区で実行されていた。小学唱歌にも「大岩小岩を掘り起こし、お山のクマさんみちぶしん・」などとあったので全国的なものでもあったろう。むろん大雨への備え、壊れたところの修復など具体的な目標があっただろうが、いろいろなことを共同作業で行うことで共に汗をかき地域住民の絆も強まったであろう。

くため、あるいは不便だからこそ、それを取り越える自分の力を実感したく敢えて不自由に身を置く人々も居ることだろう。これはいわば豊かな時代のなせるわざではなからうか。であるならば、だからこそ、では島の埋もれた遍路道の再生活動も、実は我々の健康増進や、来島者を呼び込む観光の一助になるのではないかと、このたびのことを通じて思ったことであ

た。 (平山和昭)

気がつけばこの「木戸口」も四十八回目。五年目に突入。私の言いたい放題のひとり言におつき合いました。感謝しております。月末までに原稿を送る約束がなかなかな守れない。夜、頭の中で下書きをしながら、つい寝てしまふ。でも翌日はちゃんと思い出せるから大丈夫。しかし漢字が浮かんでこないのには参る。以前は重い広辞苑をペラペラとめくっていた間に、脱線して読みふけり、気づけばどの漢字を捜していたのか忘れるありさま。今はケイタイの辞書に助けをもらっている。

大袈裟な装置。めでたく卒業の日、「もう少しすればきつと安くてスマートなパソコンが出ます。少し待ちましょう」と先生が耳元でささやいた。待ちながら操作方法は完全に忘れ、買う気はなくなつた。これからもBの鉛筆を握り、ペンだこをつくりながら書くんだらうな。ねえあなたにペンだこある？



【映画研究会】

5月15日(日)午後7時~ 無料

「萌の朱雀」 河瀬直美監督作品



河瀬直美監督が、97年度のカンヌ国際映画祭で新人監督賞にあたるカメラ・ドールを日本人で初めて受賞した作品。過疎の村を舞台に、とある一家の人間模様を瑞々しいタッチで描いたドラマ。出演：園村隼 尾野真千子 柴田浩太郎

★出よう会(参加自由) 六月一〇日・やよみ亭。六月一七日・土生集会所。NO「繋がるふるさとネット」

海員組合を創った男・探訪

濱田國太郎顕彰準備会

(1)

日本海員組合（現在の全日本海員組合の前身）をつくった濱田國太郎は、わが町の旧生名村の出身です。

明治6年、父・濱田善太郎、母・ハツの長男として生まれ、1歳の頃両親は離婚。実母のハツは同村の濱田馬之助と、実父の善太郎も同村の濱田治の次女サワと再婚という境遇になりました。

明治17年11歳の4月、家督を相続。折しも同年8月15日夜半に強烈な台風が芸予諸島を直撃、生名島も壊滅的な被害を受けました。その年の11月、父善太郎が死去。村制も岩城村ほか1ヶ村（生名）と変更になり生名村は岩城村に併合されました。

そのころ國太郎は帆船為朝丸に給仕として乗船（16歳説もあり）、そのことが当時過酷な職場であった下級船員の待遇改善、地位向上に向けた戦いへの運命の船出ともなったのです。



●3月中旬、濱田國太郎顕彰準備会メンバーで旧・濱田公園草刈り

このコラムは松山商科大学名誉教授、弓削商船高専名誉教授である村上貢氏（上島町生名在住）の研究成果である著書および、折に触れ村上氏より拝聴した講話ほかを下敷きに、後世「海父」と呼ばれた國太郎に関し町民の皆様方と情報なり知識を共有したいと念願して始めました。

我が国はいま長い経済停滞期であり、グローバル経済と呼ばれるものの余波をもろに被っています。その我々にとって、いまから140年前、時代の荒波と闘い今日の国の繁栄の礎を築いた郷土の先人の史実を知るのには、決して意味のないことではないと考えます。



どなたでも自由に参加できます
第十八回 因島自由大学
講師 第81代内閣総理大臣
村山富市氏
演題: 回想・内閣総理大臣

'14年6月7日(土) 午後2時-4時
芸予文化情報センター

学費2000円(当日会場でも受付いたします)

因島自由大学事務局(永宗) 電話 0845-22-5382
〒722-2324 尾道市因島出帆町中央区1087-1

http://www.jiyuudaigaku.jp

先月号で紹介した読者からの投書について、感想のお便りをいただきました。

議会や議員、首長あるいは巷での情報発信に関し、それへの感想も一つの情報。目指すは元気な町、永続する町。今を引き受けている我々住民の責務。

おたよりから

まず公人面に関して。町長並びに議員全員に送り付けられたものですから本来ならどこかで協議すべきものでしょうが、匿名ゆえ着目しなかったのかも知れませんね。その中で取上げて取り上げた平山さんのそ

で読者からの指摘があったことを紹介しております。匿名(A、B氏)なのであえて公にされる勇氣と公正さを感じます。

議会としては匿名ゆえ首長及び議員宛てとあっても答える必要なしとしたのかもしれませんが、取り上げるまでもないと判断したのでしょうか。だとすると全く無視するか、誰か公人の中の私人が取り上げるかです。

反対論のない議会、住民の要求を吸い上げ実現しない行政を「足の引つ張り合いのない」町と思うのはA氏の理想なのかもしれないですが、国会はそうではないですか。逆に言えば活発で望みのある町となるのではないですか。

道鏡が左遷された地に医科大学が創られました。そこが国が地だったとか。でも道鏡が医者として活躍した地だからでもあると、勝手に思っています。弓削商船も創られた意味があると思います。それを上手に受け継ぐのが弓削島の人たちだと思います。少なくともB氏は船

乗りの伝統を重く見ない立場ではないかと推測します。

後者は上島町という小さな場所でも文化面を重視した働きかけ(試み)や、それらを含めた町内の様子と個人の考えをにじませたものと受け止めています。特に私は後者をなるとは思いません。

「通信」4月号について。平山さんの場合「通信」には議員と公人と弓削通信発行者という私人が反映されています。前者は町政の問題点を浮き彫りにし、私見を述べる堂々としたものです。

「船乗り」は差別語なのではないか。最近では使用しなくなっています。船員の妻も夫を船乗りと言いました。その伝統が弓削島にあるから、商船学校もできたのでしょうか。その学校が廃校となるウワサを一時聞いたことがありますが、生徒が少なくなるとゆえとすれば、船乗りを重んじなくなつた風潮からだと思はれたいと思います。船乗りになる人が少なくなつたので、船乗りの仕事を見直す企画かと私は想像していました。

無責任提言でもそれに答えることをしなくてはなりません。平山さんはそれにきちんと答えています。これを評価せずまた似たようなことを投書してくるのかです。それにしても守る会には匿名でない分救われるのかもしれない。

宮城県・本田義幾
※(本田さんは道鏡を守る会事務局長)

「通信」4月号について。平山さんの場合「通信」には議員と公人と弓削通信発行者という私人が反映されています。前者は町政の問題点を浮き彫りにし、私見を述べる堂々としたものです。

議会としては匿名ゆえ首長及び議員宛てとあっても答える必要なしとしたのかもしれませんが、取り上げるまでもないと判断したのでしょうか。だとすると全く無視するか、誰か公人の中の私人が取り上げるかです。

反対論のない議会、住民の要求を吸い上げ実現しない行政を「足の引つ張り合いのない」町と思うのはA氏の理想なのかもしれないですが、国会はそうではないですか。逆に言えば活発で望みのある町となるのではないですか。

道鏡が左遷された地に医科大学が創られました。そこが国が地だったとか。でも道鏡が医者として活躍した地だからでもあると、勝手に思っています。弓削商船も創られた意味があると思います。それを上手に受け継ぐのが弓削島の人たちだと思います。少なくともB氏は船

乗りの伝統を重く見ない立場ではないかと推測します。